

モモせん孔細菌病の罹病落葉は感染拡大に影響しない

福島県農業総合センター 果樹研究所 病害虫科

- 1 部門名 果樹－モモ－病害虫防除
- 2 担当者名 日下部翔平、七海隆之、藤田剛輝
- 3 要旨

モモの生産現場では、モモせん孔細菌病により早期落葉した罹病葉が本病の発生を助長する可能性を懸念する声がある。そこで、健全樹の幹元に罹病落葉を複数回敷設し、罹病落葉による本病の感染拡大の可能性を検証した。その結果、罹病落葉は本病の感染拡大に影響しないことが明らかになった。

- (1) 罹病落葉が伝染源となるかを確認するため、2021年及び2022年に、「あかつき」の地植えポット樹の幹元に、果樹研究所内及び現地ほ場から採集した本病の罹病落葉（秋期防除による薬剤の影響なし）を敷設した（図1）。また、2022年は罹病落葉を樹上に設置する処理を追加した。
- (2) 2021年は8～9月に合計7回、2022年は8～9月に合計4回、降雨前に罹病落葉を1樹当たり40枚程度敷設した。
- (3) 10月に本病の発生状況を調査した結果、2021年及び2022年ともに、罹病落葉の敷設の有無にかかわらず、本病の発生は確認されなかった（表1、2021年のデータは省略）。
- (4) 樹上の罹病葉は伝染源となるため、見つけ次第摘除する。

表1 罹病落葉の敷設または樹上設置によるモモせん孔細菌病の発生状況（2022年）

	樹No.	調査葉数	発病葉数	発病率率 (%)
罹病落葉 幹元敷設	I	212	0	0.0
	II	165	0	0.0
	III	196	0	0.0
	IV	169	0	0.0
罹病落葉 樹上設置	I	157	7	4.5
	II	177	5	2.8
	III	197	4	2.0
	IV	178	0	0.0
無処理	I	218	0	0.0
	II	200	0	0.0
	III	212	0	0.0
	IV	197	0	0.0

注) 罹病落葉の幹元敷設及び樹上への設置は8月17日、29日、9月8、17日に実施した。調査は10月12日に実施した。



図1 罹病落葉を敷設したモモ樹（撮影日：2021年8月24日）

- 4 成果を得た課題名
 - (1) 研究期間 令和3～7年度
 - (2) 研究課題名 重要な病害虫に対する防除技術の確立
- 5 主な参考文献・資料
なし